

平成23年7月22日発行

第154号

# こうふ町 議会だより

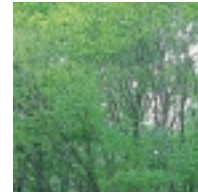
## 町勢

世帯数/1,134世帯

人口/3,464人

(平成23年7月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ

議員の新体制決まる	……2P~3P
6月定例会	……4P~5P
<b>いっぱん質問</b> 町政を問う	…6P~8P
議会改革調査特別委員会	……9P
私のひと言	……10P



# 暑さをふきとばせ!!

# 今期後半 議会の新体制決まる

## 常任委員会委員構成

### 総務経済

- (1) 総務・財政・産業経済・土木及び環境整備に関する事務の調査及び議案、請願、陳情等の審査を掌る。
- (2) 他の常任委員会の所管に属しない事項を掌る。



委員長  
森田 智  
議会運営委員



副委員長  
上原 二郎  
監査委員  
議会運営委員



宇田川 潔



日野尾 優

### 教育民生

- (1) 教育社会及び福祉保健に関する事務の調査並びに議案、請願、陳情等の審査を掌る。



委員長  
越峠恵美子  
議会運営委員



副委員長  
田中 幹啓



川端 雄勇  
議会運営委員長



長岡 邦一  
議会運営副委員長



川上 富夫



副議長 川上 富夫



議長 日野尾 優

## 就任ごあいさつ

6月定例議会で、議員各位のご推挙を賜り議長の重責を担うことになりました。まことに身に余る光栄と、その責任の重大さを痛感しております。

私は議会経験も浅く、浅学非才ではありますが、議員の皆様を始め多くの方々にご支援とご協力をいただき、職務を全うする決意です。

地方分権の時代を迎え、自治体の自己決定、自己責任範囲の拡大した今日、議会においては、執行機関と互いに切磋琢磨しながら、住民の方々の幸せを大前提に本町発展のため努力する所存ですので、町民皆様の御理解とご協力をお願いいたしまして議長就任のごあいさつといたします。

議長 日野尾 優

この度、議会の委員会構成の改選により、副議長という大役を拝命し身に余る光栄です。

責任の重大さを感じ微力ながら全力で取り組んでいく覚悟です。私は、議会人としては、本当に経験も浅く、皆様のご協力をひとえにお願いするものです。

安心して江府町の将来に生きていける、まちづくりを協働で進めていきますので、町民の皆様のご指導、ご支援をお願いし、就任のごあいさつとさせていただきます。

副議長 川上 富夫

## 議長に日野尾優 議員を 副議長に川上富夫 議員を選ぶ

6月14日、定例会が招集され、一般質問・議案審議等を終え、最終日に議長・副議長から辞表が提出された。それに基づき議長選挙を行ない、日野尾優議員(3期)を選任した。引き続き副議長選挙を行ない、川上富夫議員(3期)を選任した。

各常任委員会委員は、議長の指名により決定、委員の互選により正副委員長を決定した。

### 主な議会選出議員

西部広域行政管理組合議会議員	日野尾 優
日野町江府町日南町衛生施設組合議会議員	森田 智 (総務常任委員長)
	田中 幹啓 長岡 邦一
日野病院組合議会議員	日野尾 優 川端 雄勇 (日野病院・あやめ監査委員)
後期高齢者医療広域連合議員	日野尾 優

# 6月定例会

## 一般会計

### 補正後

# 33億3,976万6千円に (128,766千円追加)

## 特別会計 5会計

### 補正後

# 19億1,027万8千円に (1,198万円追加)

平成23年6月定例会は、6月14日に招集され、会期を6月17日までの4日間と定めて開かれました。今回の定例会には、繰り越し明許費2件報告・国保の保険条例の一部改正2件、平成23年度追加補正を含む11件が上程された。

これについて慎重に審議した結果、いずれも原案どおり可決しました。

### 繰越明許費の主なもの

総額 196,525千円

- ※きめ細やかな交付金事業 5件 3,7096千円
- ※地デジ支援事業 1件 1,6953千円
- ※町道洲河崎下安井線橋 1億1250千円
- ※雪害対策関係 3件 5475千円
- ※農免農道負担金他 1件 2,2707千円
- 生活保護レセプト管理導入 1,323千円

### 国民健康保険税 一部改正

◎基礎課税額の当該合算額が51万円を超える場合、基礎課税額は51万円とする。

◎後期高齢者支援金課税額の当該合算額が14万円を超える場合後期高齢者支援金課税額は14万円とする。

◎介護納付金課税額の当該合算額が12万円を超える場合、介護給付金課税

額は12万円とする。

◎平成21年10月1日以降の出産一時金に関する経過措置。

当分の間、平成21年10月1日以降の出産一時金は「35万円」とあるのは「39万円」とする

### 特別職給与削減

◎行財政改革と雪崩災害の責任として、平成23年7月1日から平成24年3月31日まで町長30%削減する。

副町長・教育長20%削減する。



南大山農免農道 (工事中の柿原1号橋)



奥大山スキー場安全対策航空写真

その他主なもの

◎辺地に係る公共的施設の総合計画の策定について

整備計画を平成23年から25年まで3年間辺地対策予定

※大山第2広域農道雪崩他施策事業

15,000千円  
※スキー場安全対策事業  
73,200千円

※圧雪車改良事業

800千円

※乗用草刈機導入事業

4,800千円

※水工場ヨードル整備改良事業

12,600千円

※農業集落排水事業

(美用集落)

26,300千円

※農業集落排水事業

(杉谷集落)

29,800千円

◎過疎地域自立促進計画の変更

◎地デジ共聴施設改良事業

業

◎タクシー運営助成

◎高齢者日常生活交通確保支援事業

◎瓜菜沢看視舎指定

◎瓜菜沢放牧場管理組合

組合長 加藤俊六氏

陳情書等の審査

総務経済常任理事会

◎採択とすべきもの

◎採択とすべきもの

◎採択とすべきもの

◎採択とすべきもの

理由

一般廃棄物の処理やり

サイクル費用は、自治体の財政を大きく圧迫している。循環型社会を築くには、拡大生産者責任

(EPR)及びデジポット制度法制化が必要であるため。

◎不採択とすべきもの

◎不採択とすべきもの

◎不採択とすべきもの

◎不採択とすべきもの

◎趣旨採択とすべきもの

◎最低賃金の引き上げと制度の抜本改正を求める意見書採択の陳情は趣旨採択とする。

◎趣旨採択とすべきもの

教育民生常任委員会

◎趣旨採択とすべきもの

◎趣旨採択とすべきもの

◎趣旨採択とすべきもの

◎趣旨採択とすべきもの

◎趣旨採択とすべきもの

◎趣旨採択とすべきもの

◎趣旨採択とすべきもの

議員発議

報酬15%削減し、県下最低  
年間約720万円減額

行財政改革と雪崩事故対策の一環として、議員報酬を平成23年4月から6月まで13%、7月から24年3月まで15%削減。約720万円減となる。  
この危機に際し、議会として積極的に対応する事を決めた。



乗用草刈機

# 一般質問 町政ここを問う

一般質問は3人の議員が行い、町長ならびに教育長の方針をたじた



日野尾 優

## 地域医療の充実・発展は アイデアを売る観光事業は

問
健康増進 対策は

答
集落及び鳥大医学部と連携して進める

### 質問

高齢化の進む中、医療需要が増大している役割も「病気の治療」から「健康の維持・増進、病気の管理、身体機能の回復」へとシフトしてきている。医療費の抑制対策や医師体制等自治体の果たす役割は重要です。健康増進対策等十年後、二十年後の地域医療を見据えた取組みについて、町長の所見を伺う。

### 町長答弁

本町では「地域ですすめる健康づくりと生きがいづくり」として、発症

予防から機能回復まで総合的に支援する体制を目指し、保健・医療・福祉の連携を強化しております。具体的には、

①鳥取大学医学部と連携して「脳卒中対策」の展開、地域包括支援センターが主体的に行っているもの忘れ外来による「認知症対策」の充実、肺炎球菌ワクチン接種などの有効な予防接種の継続。

②地域の活性化なくして健康なし」との観点から集落単位での、しあわせのまちづくり事業の展開と充実。

③保健医療福祉を担う次世代医療従事者の育成が重要であり、鳥取大学医学部地域医療学講座と連携し、医学生の育成及び支援、住民の「命」と「健康」を守る取組みは医学

生の教育の場として永続的に健康対策事業を展開し、医師の確保が可能になると考えております。

問
観光客誘致 対策は

答
関係団体と連携し取組む

### 質問

観光立町の実現は21世紀の町づくりの柱として、今後益々取組みの強化が求められる。地域に埋もれている有形無形の資源に磨きをかけ、「創造を売り出す時代」である。地域の客観的現状自然、立地、資源、歴史、産業構造等）を正確に把握し、目標を設定しなければなりません。県の総合特区構想を踏まえ、観光客誘致対策等について、

町長の所見を伺う。

### 町長答弁

江府町には、観光資源となる、自然、歴史、文化、景観が存在している。歴史、文化においては、毎年一万人近くの出があり、500年の伝統を誇る江尾十七夜、昨年発足した奥大山古道保存連絡協議会により一部復活した大山古道等、町内外から伝統行事と歴史遺産に関心が高まっている。しかしながら、近年の観光施設利用者数は、減少したが、平成22年には15万人まで回復しています。奥大山ブルーベリーファーム、サントリー天然水奥大山ブナの森工場等の影響が上げられる。総合特区構想につきま



笠良原（ブルーベリー農園）

省直轄の共同プロジェクトとして県西部地区を中心に計画の準備がされており、交流人口を増加させる構想です。江府町においては笠良原を中心とした次世代環境教育ゾーン構想として、自然エネルギーを利用し教育、自然、観光の共存を目指すものです。関係機関と十分協議を重ね、今後の申請に向けて努力していきたいと思っております。現在、大山寺から奥大山、蒜山を中心活動している民間団体の「グランドワーク大山蒜山」などと情報交換を行っており、今後連携を図ってまいります。

# 奥大山スキー場・雪崩事故の対応は 有害鳥獣の駆除を



宇田川 潔

<b>問</b>	遺族補償は
<b>答</b>	調停で補償 交渉を進める

### 質問

昨年末に発生した事故から半年が経過し、8月には犠牲になられた方々の初盆を迎えます。事故発生から遺族対応としては、一人100万円の手見舞金が支払われて今日にいたっております。

一方事故対策として専門家への調査依頼、従業員の研修などが報告されています。調査員による中間報告によれば、利雪事業であるスキー場経営者として雪崩に対する認識の甘さが指摘されており、自然災害と簡単に片

付けられない面もあります。今後、経営者として万全を期することは当然のこととして、遺族対応には誠意をもって交渉に当たりたい。

さて、町民の関心は補償金の原資の出処と原因者としての責任の明確化です。また行政の監察役の議会も責任の一端があるように思われます。いずれにせよ、責任の所在を明確にして町民に示すべきと考えます。町長の所見を伺います。

### 町長答弁

亡くなられました皆さんの無念さを感じますと改めてご冥福をお祈りするばかりです。

最終報告を受け、その結果を遺族の方に報告し

<b>問</b>	最高責任者としてけじめは
<b>答</b>	責任を回避する考えはない

### 質問

町民の声として遺族補償金に、町民が納めた税金を使うなどの声があります。また新たに雪崩事故に対する義援金募集を考えておられませんか。

理解をいただきました。遺族補償については法的な手続きで調停により交渉を進めることをご理解いただいております。今後の交渉については、弁護士と相談しながら司法判断に基づき行ってまいります。具体的な補償額が提示された段階で、予算化について財源も含め相談いたします。財源の一部として特別交付税のうち、豪雪対策分を財政調整基金に積立を行うっており、ご理解を賜りますようお願いいたします。

<b>問</b>	共同型防止対策の充実を
<b>答</b>	防止対策協議会を主体で

### 質問

町内外を問わず、農家の皆さんが丹精込めて育てた農作物が有害鳥獣のイノシシ、ヌートリアなどに、一夜にして食い荒らされる被害が続発しており、その被害は甚大な額であります。考えられる要因は、獣のイサとなる木の实などの不作が挙げられますが、我々の生活圏においても人口の減少、高齢化、後継者不足で防護対策が追いつかない状態が被害に拍車をかける結果につながっています。防護は現在個人対応がほとんどですが限界があります。

どの時期にどう責任を取るかを考えて来た。特別職の報酬削減を来年3月まで実施したいと考えており、義援金については考えていません。補償金については町の責任で取り組むと考えてあります。

### 町長答弁

当面の対策として、行政指導でグループ、集落単位の共同型防護対策の奨励と指導、併せて電気柵、防護網等の資材費の全額助成、さらに捕獲技術者の育成が急務と考えます。本年を有害鳥獣絶滅元年と位置づけ対策を推進していただきたい。捕獲した鳥獣は地域資源の食材として売り出せば地域の活性化にもつながります。町長の所見を伺います。

### 町長答弁

有害鳥獣対策として、大きく分けて二つの取組みをしております。一つは、個体数を減らす取り組みです。成果として22年度イノシシ56頭、シカ1頭、カラス7羽の実績を挙げています。二つ目は、侵入を防ぐ取組みとして2戸以上の共同設置を要件に、県、町、地元それぞれ1/3を、昨年度から国庫補助を活用し国が55、町11、地元34の負担割合で、貝田、下河原団地に設置し、本年5地区で計画しております。捕獲した鳥獣も地域資源として、先進地を参考に検討してまいりたいと考えています。

町民の声として遺族補償金に、町民が納めた税金を使うなどの声があります。また新たに雪崩事故に対する義援金募集を考えておられませんか。

# 介護老人保健施設「あやめ」の運営は



川上 富夫

<b>問</b>	今後の福祉行政は
<b>答</b>	福祉の一元化も検討

**質問** 「あやめ」は、順調な経営状況と報告を受けていますが、今後介護認定の基準が厳しくなると、入所の人数も限りが出てきます。要介護認定が要支援になれば必然的に退所してケアハウス等の施設へ転入しなければなりません。「あやめ」の経営と町民の福祉施設の充実を考えるなら、ケアハウス等も必要になってくるのではないのでしょうか。

他の施設に於いても介護老人保健施設の次の段階を模索しているように

伺います。  
そして老人福祉につきましては、当町でも社会

福祉協議会に独居老人の自宅訪問介護を行っていただいております。この福祉の一体化は、今後向かっていく方向ではないでしょうか。町長の所見を伺います。

**町長答弁**

町内の高齢者の介護認定状況は、本年4月現在253人で要支援の方は



介護福祉施設や介護老人保健施設



社会福祉協議会「訪問」

40人、要介護の方は213人です。認定率18・6%で内78人が介護福祉施設や介護老人保健施設へ入所しております。  
1年前より9%施設入所が増えていきます。町内の子口ルの里特別養護老人ホームには町内外から100名の入所希望者がある状況です。

新たな施設の計画はありませんが、介護老人保健施設「あやめ」と社会福祉協議会等の福祉行政について、一体化も視野に入れ、今後十分協議、検討していきます。

要支援の方は、特定施設であります老人ホーム・ケアハウスの利用に

# 議会改革調査特別委員会

## 第1回議会報告会

### ひらかれた議会改革

広く町民の皆様に、議会をより身近に理解していただける場を提供し、皆様の声を聞く機会を5月30日に設けた。



## 議会と町民との距離を縮める

最初に年末の雪崩事故による犠牲者と、東日本大震災による犠牲者に対し、出席者全員で黙とうを捧げた。

### 越峠議長

議会と町民の皆さんとの距離を縮める議会改革の第一弾として、6月定例会の予算説明をした。一般会計補正・特別会計5会計補正予算額総額52億5千万円を採択した。年末の雪崩事故に対する安全対策の経費も計上した。

### 議会改革調査特別委員会

川上 富夫

議会改革については、一昨年から先進地、福島町を始め研修を重ねてきた。3月定例会に於いて議会改革調査特別委員会を設置し、今回の議会報告会もひらかれた議会

として、皆さんの意見を聞かせていただき、今後さらに研鑽して議会改革を進める。

### 日野病院議会報告

川端 雄勇

日野病院の経緯と最近の決算状況について説明した。近々三年間は黒字決算を計上しているが、患者数は近年減少している。

日野郡の中核病院として、地域の医療を守るため、努力して参りたい。

### 三町施設組合

### 議会報告

森田 智

し尿処理場(清化園)、可燃物焼却場(くめぎの森)の運営状況、また、老朽化していく各施設の延命化問題等、将来展望について説明をした。

## 議会へ一言

◎全員協議会の公開は  
答 2年前から公開している。

### ◎雪崩事故の経過について

答 今後の雪崩防止対策を予算化した。4名の被害者の方々の補償等については、弁護士を介して進めている。

◎議員定数の削減は、これ以上すべきではない。  
議会活性化のため、報酬削減はすべきではなく、活力ある議会を望む。

◎これからも議会との話し合いの場を持って頂きたい。  
答 適宜機会をとらえ開催する。

◎庁舎について駅周辺はどうか。  
答 参考にし、検討していく。

※掲載しきれませんが、今後の議会活動に役立てて頂きます。



# ひとこと



池の内 加藤 郁子

## スッピンで暮らす

主人が定年になり、生まれ育った侯野に帰って来て、この秋で丸二年になります。生まれ育ったとはいえ、三十数年振りの故郷での暮らし。最初の頃は近所の方以外、お名前とお顔が一致しない浦島太郎状態でした。

稲作も田植の手伝いに帰っていた程度で、何もかも初めての事だらけで？マークの連続でした。一年目は言われるままに過ぎ、二年目の今年は何任せてもらい、主人と共に何

とかこなしているつもりです。畑の方は母の手伝いをする位ですが、野良着も馴染み、姿だけは立派な農家のおばちゃんになりました。

勤めていた頃は化粧をしなければ外に出れない私でしたが、今ではスッピンで走り廻っています。化粧という鑑を外すと、まあ楽しいこと外すと!! (紫外線対策は、バッチリしますが)

田舎暮らしは不便な事も多くありますが、採れたての野菜を食べ、雨の日や夜庭先に飛ぶホタルを見ながら、趣味の川柳を捻る。考えてみると都会では味わえない豊かな生活です。

心の鑑も外し、気負わず飾らず、スッピンの自然体で暮らしていこうと思っています。



長い間生まれ故郷を離れてサラリーマン生活をしていたが、定年を迎えた昨年六月に四十二年振りに帰郷した。

第二の人生の地として、十八年間生まれ育った江府町を生活の基盤とすることにした。

これまで東京を中心に、仕事の関係で海外勤務も経験した私にとっての久しぶりの故郷生活は「浦島太郎」状態だ。

それでも生まれ育ったこの地はやはり私には合っているようにも思う。おいしい空気を胸いっぱい吸い込み、青々と

茂った山並みを目の当りに眺め、キラキラ輝く夜の星空を眺め、自然の恵みをたっぷりと全身に浴びながらの毎日の生活はとても楽しい。

これまでのデスクワークから、手に鋤を持ち、天候を気にしながら畑に行く生活を始めました。

故郷を離れた頃は、「故郷は遠くにありて思うもの」今は「故郷は生活をしてみてわかる良さがある」と言ったところだろうか。自然を相手に生活をしていくことは、恵みと厳しさで毎日が異なる日であることを感じながらの生活でもある。

今日はどうな一日になるだろうかと楽しみでもあり不安でもあるが、常にひと工夫を心がけながらの生活を満喫していこうと思います。



武庫 西原 雅仁

## 故郷 (ふるさと)



## あとがき

▼東日本大震災から4ヶ月余り、がれきの町は復旧への糸口もつかみかね、原発周辺住民は、あてどなき避難生活、政治迷走は続くが復旧に光を!

▼8月15日は終戦記念日。第2次世界大戦で300万人の命が亡くなり日本は焼野原化、しかし先人たちは世界一の努力をし、今日の平和で豊かな国となりました。

▼作家故吉川英治のことは「朝のこない夜はない」大震災の復興も時が解決、被災者の皆さんがんばってください。 森田

### 議会広報調査特別委員会

- 委員長 川上 富夫
- 副委員長 森田 智
- 委員 川端 雄勇
- 委員 田中 幹啓
- 委員 日野尾 優

